



のびのび若っ子

今日も 明日も いつまでも

校長 池田 千穂

校門の紅梅が花を咲かせ、春の足音を確実に感じております。1月は行く、2月は逃げる、3月は去る…とはよく言ったもので、年が明けてから本当にあっという間に時が過ぎます。今年度も残り1か月となりました。先週、紅梅に少し遅れて白梅も花を咲かせていました。来たる卒業式は若葉台のあちらこちらで、美しい花が門出を祝ってくれることでしょう。

子ども達は今、4月の進級に向かって今年度のまとめと準備を進めています。3月は「去る」と言われるように、いろいろな人との別れの場面があり、自分の思いを伝えることの大切さを感じる時期だと思えます。小学校でも6年生にとっては特別な3月です。

そんな6年生ですが、先日、小学校最後の授業参観「未来へ羽ばたく会」、懇談会がありました。子ども達は「感謝の気持ちを伝える」ために様々な活動に取り組んできました。どの発表も丁寧に熱心な準備が感じられ、心のこもったものでした。保護者の皆様にも子ども達の感謝の気持ちが届いたことと思えます。

6年生は『手話で校歌を歌う』という活動にも取り組んできました。手話サークル・ハンドステップの方たちをお招きして手話をご指導いただき、授業をすすめてきました。「未来へ羽ばたく会」では各クラス、練習の成果を披露しました。6年生の「伝えたい」という気持ちが、校歌の手話をただのハンドサインから「言葉」にかえたと思えました。最近、ドラマや映画で手話を目にするが増えました。私たちにとって手話が身近なものになってきたのだと思えます。手話を学ぶ人もとても増えていると聞いています。私は以前の勤務校がろう特別支援学校と交流していました。その当時、ろう特別支援学校では手話を使っていませんでした。私は手話が使えれば、もっと交流活動の可能性が広がるのにどうして使わないのかと思っていました。手話が学習指導要領でコミュニケーション手段として明記されたのは2009年のことと後になって知りました。手話は大切な言語です。話し言葉と同じように、人によって癖があり、動きもちょっと違うそうです。口話も表情も大事な表現の一部だそうです。思いを伝えるためのさまざまな方法を知るとは私たちの人生を豊かにしてくれると思います。20日(月)、6年生が音楽朝会で校歌の手話を下級生たちに教えました。6年生が校歌を通して若葉台小学校を大切に思う気持ちと下級生たちを思う優しい気持ちが伝わる手話でした。



保護者・地域の皆様には、一年間、本校の教育活動を支えていただきまして心より感謝申し上げます。ありがとうございました。これからも若っ子達、また巣立つ6年生を見守ってください。よろしくお願いいたします。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切にすることを育みます』 『意欲的な学びの芽を育みます』